

特筆すべき種のカテゴリーとその理由

【植物】

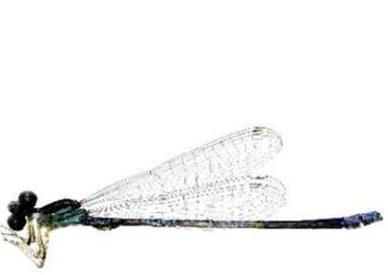
和名 ハルリンドウ	
カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
全国的調査の結果、この地域のもは他の地域と異なることが判明し（仮名）トウカイハルリンドウとなることが学会で発表された。この結果を踏まえランクの変更を行う。	

和名 オキアガリネズ	
カテゴリー 新規指定 → 準絶滅危惧 (NT)	
東海地域の湿地の縁やその付近に分布している。遺伝子解析の結果、ネズとハイネズの雑種であることが判明している。その交雑は氷河期に起きたと推定されており、氷河期の生き残りの種である。近年、湿地の開発や遷移の進行によって減少している。	

【哺乳類】

和名 ニホンイタチ	 <p>※シベリアイタチ (上) ニホンイタチ (下)</p>
カテゴリー 新規指定 → 準絶滅危惧 (NT)	
日本固有のイタチである。2000年以前には、岡崎市を含めて愛知県内に広く分布していたが、近年の調査で岡崎市内西部の低地にはほとんど分布していないことが明らかになった。また、本種と交雑する可能性が指摘されている近縁の外来種であるシベリアイタチが侵入している。分布域の減少と外来種の侵入があることから、準絶滅危惧種に選定した。	

【昆虫類 トンボ目】

和名 オオイトトンボ	
カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)	
オオイトトンボというが体が他の種に比べて大きいわけではない。自然度の高い池や沼に生息していたが、確実な記録が30年以上ない。この10年間は既産地に赴いて生息の確認を行った。しかし、どの産地も自然度が失われ、環境変化による影響が懸念されるため、絶滅危惧Ⅱ類からⅠB類へ移行した。	

【昆虫類 チョウ目】

和名 ギフチョウ	
カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)	
<p>岡崎市では、現在、2ヶ所で生息しているのみである。2011年、2013年の豪雨で生息地が水没し、産卵数が激減した。さらに2023年6月の豪雨で、幼虫や蛹のほとんどが流失し、発生数がさらに激減する可能性が極めて高く、現時点では準絶滅危惧から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。</p>	

【クモ類】

和名 ヒゴユウレイグモ	
カテゴリー 新規指定 → 情報不足 (DD)	
<p>平成20年に新種記載されたユウレイグモの1種で今のところ愛知県が分布の東限とされている。竹林（枯れたモウソウチクやマダケの内部）という極めて限られた環境に生息し、開発などで竹林が失われると本種も姿を消すと思われる。市内では1ヶ所で確認されているが、今後の調査により生息状況を明らかにしつつ保護すべき種であるとして選定した。</p>	

【貝類】

和名 ムシオイガイ	
カテゴリー 新規指定 → 絶滅危惧 II 類 (VU)	
<p>愛知県下では産地と個体数が少なく、市内では2022年に1ヶ所で新たに確認された。落葉の下に生息し、殻径は約4 mm。生息地が少なく、絶滅の危険が高いため、絶滅危惧 II 類に選定した。</p>	